



九州新幹線全線開業後の 九州における観光消費の状況

2012 年 2 月 22 日（財）九州経済調査協会

2011 年度九州の観光消費推計額、2 兆 5 千億円

このたび九経調では、九州新幹線全線開業後の観光消費額の推計を行った。推計対象期間は、2011 年度（2011 年 4 月～12 年 3 月）である。観光庁「宿泊旅行統計」をベースに 2012 年 1 月末までに公表されている統計およびアンケート、事業者へのヒアリングなどの情報をもとに、3 月末までの推計を行っている。なお日帰り客数に関しては把握が困難であることから、宿泊客数と日帰り客数の比率を過去の実績で固定し、宿泊客数と連動して推移すると仮定した。また九州内外での交通費の算出も難しいことから、交通費を除いた消費額の推計である。

推計の結果、2011 年度の九州 7 県での観光消費額（九州内外での交通費を除く）は、2 兆 4,900 億円となった。うち宿泊客は 7,500 億円、日帰り客は 1 兆 6,800 億円、訪日外国人客は 600 億円である。2011 年度は客数、旅行単価ともに伸びているため、同様の推計方法で算出した 10 年度の観光消費額（2 兆 2,400 億円）と比較すると、約 11% 程度の大幅な増加となる。

これを九州の域内総生産額（内閣府「県民経済計算（2008 年度）」）と比較すると、観光消費額の規模は域内総生産額の 5.3% に相当する。

観光消費額の推計方法

- 2011 年度（2011 年 4 月～12 年 3 月）の観光客数（宿泊客数・日帰り客数・訪日外国人客）に、1 人当り観光消費額（旅行中支出（交通費除く））を乗じて観光消費額を算出した。
- 観光客数のうち宿泊客数は、観光庁「宿泊旅行統計」の実宿泊者数を用いた。現時点で集計が実施されていない 2011 年 10 月～12 年 3 月の実宿泊者数については、当会が四半期ごとに実施している「九州の観光・レジャーに関するアンケート」や事業者へのヒアリング、各県の観光統計などを参考に推計を行った。
- 日帰り客数は、2010 年の各県観光統計より、県内の宿泊客数・日帰り客数の比率を算出し、その比率を固定したまま宿泊客数の増減と連動して推計した。日帰り客数を集計していない県は、九州他県の平均値を代入した。
- 訪日外国人客数は、観光庁「宿泊旅行統計」の外国人実宿泊者数を用いた。2011 年 10 月～12 年 3 月の数値は、宿泊客数と同様の推計を行った。
- 1 人当り観光消費額は、宿泊客・日帰り客については、観光庁「旅行観光消費動向調査（2009 年）」の購入単価（全国平均）をもとに、2010 年度・11 年度の九州の旅行単価を作成した。訪日外国人客は、観光庁「訪日外国人消費動向調査」の単価（九州）を用いた。いずれも、九州内外の交通費、および九州に関連のない費目（スキー代、携帯電話通話料など）は除いている。
- 本推計で用いた 2011 年度の 1 人当り観光消費額単価は、宿泊客 21,597 円、日帰り客 6,068 円、訪日外国人客 61,825 円である。なお 2010 年度は宿泊客 19,276 円、日帰り客 5,628 円、訪日外国人客 61,825 円である。

レポートの詳細は、九州経済調査月報 2012 年 3 月号（当会会員限定）をご覧ください